



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.32 2008.5



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● トピック MOT 特別セミナー「グローバル競争に打ち勝つ技術経営」	1
● 海外活動報告 IADE 「知識移転」国際ワークショップ	2
IIASA-東工大ミニワークショップ	2
● イベント報告 日欧多国籍企業の海外からの技術吸収能力:米国の 研究開発子会社の自主性とコントロールのバランスの重要性	2
W9 café (にしきゆうかふえ)	3
● コラム 「産業財における関係性マーケティング」	3
● 最近の動き	4
● イベント予定 研究・技術計画学会 国際問題分科会 6月例会	4
● 連絡先	4

トピック

MOT特別セミナー「グローバル競争に打ち勝つ技術経営」 (2008年5月13日 東工大 デジタル多目的ホール)

「グローバル競争に打ち勝つ技術経営」をテーマに MOT 特別セミナー (東工大大学院イノベーションマネジメント研究科主催、SIMOT 後援) を開催しました。

厳しいグローバル競争において日本企業が打ち勝ち発展していくには、技術力を活かして、新たな顧客価値を創造し、国際競争力のある商品をグローバルな市場に提供していく必要があります。

このため、技術力を基にグローバルに事業を発展させる経営戦略・技術戦略を実践されている講師によるセミナーを開催しました。東工大 MOT 客員教授の坂根正弘氏 (コマツ会長) に特別講義として「強みを磨き、弱みを改革するグローバル経営」を、秋元 浩氏 (武田薬品工業常務) に特別講演として「国際商品における技術戦略・知財戦略～製薬産業を中心として～」をご講演いただきました。企業の方々を中心に 200 名を超える参加者があり、グローバルな視点からの技術経営の確立は焦眉の急であることが伺えました。



海外活動報告

マドリード自治大学イノベーション研究所「知識移転」国際ワークショップ

(2008年4月28日-30日 スペイン マドリード)



渡辺センター長は、マドリードでの標記ワークショップの基調講演に招待され、SIMOTの研究に則り、"New Functionality Development through Knowledge Transfer in Open Innovation"と題する講演を行い、出席した米国、スウェーデン及びスペイン・メキシコ・ベネズエラ・ペルー・コロンビア・チリ・キューバの研究者たちとインスティテューションと知識の創出/移転との共進のダイナミズムについて活発な討議を行いました。

このワークショップには、南米からの出席者が多いのが特徴で、スペイン語圏からの人々を始めとする、これまでの多くの共同研究相手とはやや異質なインスティテューションに根ざす研究者との交流は、SIMOTの研究に新風を吹き込むことになり、また、センター長の紹介した日本型共進ダイナミズムやハイブリッド技術経営は、南米等からの出席者の大きな関心を喚起し、飛行場に向かう車が出る直前まで質問攻めにあつた由です。マドリード自治大学イノベーション研究所 (IADE) は、Commitment to the Research and Transfer of Knowledge を標榜する学際的な研究所で、かねてからSIMOTの活動に注目し、2006年には、妹尾大センター員も訪問し、昨年には、研究所の運営企画の責任者である Salmador 教授が SIMOT を訪問しています。尚、渡辺センター長は、同研究所のボードメンバーに任命されています。



国際応用システム分析研究所 (IIASA) - 東工大ミニワークショップ (2008年5月1-2日 ウィーン)



国際応用システム分析研究所 (IIASA)は、SIMOTの共同研究パートナーとして、定期的に共同研究ワークショップを開いているほか、研究者の交流や学生の研修等コラボ活動を展開しています (本 Newsletter 2007年10月号ご参照)。同研究所の Leen Hordijk 所長には、2005年2月の第1回 SIMOT 国際シンポジウムの基調講演者として SIMOT の初期の舵取りに貴重な指導を仰ぎ、爾来本センターの評価委員を務めていただいています。

今般、同所長が6年の任期を終え、EUのエネルギ研究所 ISPRA の所長に転出されることになったことに伴い、共同研究の進捗を中間的に総括することを狙いに、共同研究リーダーを中心とするミニワークショップが開かれ、日・伊・蘭・露・奥・フィンランドの研究者の間で研究の進捗が報告され、その展開について密度の濃い討議が行われました。SIMOTからは渡辺センター長と藤祐司助教が出席して、SIMOTを軸とした研究進捗を報告するとともに今後の共同研究の展開について検討しました。



イベント報告

日欧多国籍企業の海外からの技術吸収能力:米国の研究開発子会社の自主性とコントロールのバランスの重要性

(2008年5月14日(水) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会5月例会では、カリフォルニア大学バークレー校 ハース・ビジネス・スクール 客員研究員 新井聖子氏が、「日欧多国籍企業の海外からの技術吸収能力」というテーマでご講演されました。講演では、日欧多国籍企業が米国で研究開発センターを設け技術を獲得する際に必要とされる吸収能力 (Absorptive capability: AC) の計測手法についてご紹介いただくとともに、海外研究センターが AC に与える影響についての実証的分析結果をもとにした考察・議論を行いました。特に、多国籍企業が海外からの技術を吸収するには、本社および海外研究センター間の関係を上手くマネージすることが重要であり、相互のインスティテューションを考慮したコントロールと独立のバランスが肝要である、との SIMOT 性の高い見解を示されました。



W9 café (2008年4月23日(水) 東工大 西9号館 414号室)



「W9 café(にしきゅうかふえ)」は、SIMOT 母体の専攻である東工大 社会理工学研究科 経営工学専攻が催しているワークショップです。経営工学的内容に限らない超分野交流を目的としており、毎月定期的に行われています。4月はSIMOT 研究員 井上善美 を話題提供者として、「部品調達システムの情報化」とのテーマで行われました。「関係性マーケティング(詳細は「コラム」参照)」の観点から、情報化が日本の自動車部品調達システムに与えた影響を多面的に分析・検証した井上研究員の発表に対し、SIMOT 事業推進担当15名をはじめとする経営工学内外の教員・研究員・学生が多数参加し、自由闊達な議論が行われました(これらの議論を踏まえた井上研究員の研究内容の詳細については、「コラム」をご参照ください)。

コラム

「産業財における関係性マーケティング」

東京工業大学 SIMOT 研究員 井上 善美



関係性マーケティングという用語を初めて用いたのはサービス・マーケティングにおける1983年のBerry, L. L.論文であり、関係性マーケティング研究の初期においては特に顧客との長期継続的な関係特定の投資が意味を持つ産業財マーケティング、サービス・マーケティング、およびマーケティング・チャンネル分野においてその重要性が強調されてきた。Berry自身はサービス・マーケティングにおける関係性を強調したが、多くの研究者がB to B取引における関係性に注目してきたのは、関係性マーケティングの重要な起源の一つが日本の自動車産業界における系列取引にあったことと無縁ではない。日本的な「KEIRETSU」ではなく「関係性マーケティング」として一般化したことで、サービス取引や後にはB to C取引、C to C取引にまでその概念が応用されるようになったのである。

産業財市場においては、売り手と買い手は、製品仕様についてお互いのやりとりの中で決定していき、共同製品開発も頻繁に行われる。そのため、取引当事者間における関係性を構築し、維持し、発展させる際のマーケティングの役割、および取引当事者間の相互行動的な接近の重要性を強調している。すなわち、産業財における関係性マーケティングでは、中核企業との経済的交換のみならず、社会的な側面からの密接な関係性をも重視している。

早くから産業財マーケティングにおいては、売り手と買い手間における長期継続的な取引関係が重視されてきた。産業財マーケティングとは、外部組織に向けられる対市場活動である。具体的には、売り手企業の営業部門、生産部門、開発部門、物流部門などが買い手企業の購買部門、生産部門、開発部門等とどのようなコミュニケーションを取り合うのか、またそのような取引関係のために売り手企業の諸部門がどのように協力し合うのか、といった問題を扱う。すなわち、そこでは売り手と買い手との関係をいかに友好的にさせるかが研究の核心的なテーマであった。

従来、日本企業は関連企業との長期的・安定的な取引関係の下でマーケティング活動を行ってきたが、系列取引などに代表される日本独自の企業間関係が問題視され、近年はその流動化が顕著である。日本の企業間関係変化の方向性を知るためには、日本の企業間関係がいかなる背景の中で構築され、その結果いかなる特徴を持つに至ったかを検討する必要がある。いかなる環境の下で日本の企業間関係が変革し、またそれがいかなる方向へ進んでいくかを明らかにすることが、今後の研究課題である。



SIMOT とは・・・

SIMOTとは、「インスティテューショナル技術経営学 (The Science of Institutional Management of Technology)」の略称です。日本の技術経営が本来機能を回復するのを見据え、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。“サイモット”と呼称しています。

■ 最近の動き ■

● 海外出張

渡辺 6月1～3日 シンガポール (国立シンガポール大学(National University of Singapore: NUS) 特別講義)
 飯島 6月3日～7月7日 メルボルン オーストラリア (国際会議 ICSSM2008 に出席)
 蘇州 中国 (PACIS2008 に出席)
 伊藤 6月25～27日 デンマーク (Healthcare Systems Ergonomics and Patient Safety 2008 に出席)

■ イベント予定 ■

W9 café (にしきゅうかふえ)

日 時 5月28日 (水) 12:00 - 13:10

場 所 東京工業大学 西9号館 4F 414号室

テーマ 「日米大学の研究・教育環境の違い」

講 師 永田京子 准教授 (東京工業大学 社会理工学研究科 経営工学)

お問い合わせは、W9Café 運営委員会 (w9cafe@is.me.titech.ac.jp) まで

研究・技術計画学会 国際問題分科会 6月例会

日 時 6月11日 (水) 18:00 - 20:00

場 所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ 「日本は世界のイノベーション・サイクルを主導できるか：4カ国におけるリニューアル・サイクルの国際比較 - インスティテューショナル技術経営学への示唆」

講 師 ジョン・バック 氏 (グロービス経営大学院 経営研究科 研究科長)

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム

「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51

東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内

西9号館 208B号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>

編集者: 菊池 隆